

平成28年度地方創生関係交付金事業評価

○ 目次

- (1) 地域資源を生かした高付加価値産業育成事業
とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略
- (2) 賑わいコンパクトシティ形成事業
- (3) 女性・若者活躍促進事業

平成28年度地方創生関係交付金事業 評価シートNo. 1

事業の名称		地域資源を生かした高付加価値産業育成事業(地方創生加速化交付金)※前身事業 とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略(地方創生推進交付金)※後継事業							
総合戦略基本目標		雇用創出数 5年間(H27~H31)の累計で1,000人以上				実績値(H27末)	実績値(H28末)	目標値(H31末)	
						221人	422人	1,000人	
事業の概要		取組の名称と内容 (総合ビジョンでの位置づけ)		取組の成果・課題		実績値を踏まえた取組の今後 方針及びその理由		取組効果	
徳島県等と連携して徳島市の「藍製品」をはじめ「木工・木製品」「食材・食品」等の地域産業の高付加価値化に向けた新商品の開発支援や域内消費の拡大、販路拡大に取り組む。		地域産業の高付加価値化に向けた新商品の開発支援 とくしま地域資源活用支援事業 (施策8-2 地域産業の振興) 地域資源活用による中小企業等の高付加価値商品の開発等を支援するため、商品開発に関するセミナーの開催や補助制度の実施、ブランディングの支援や産地PRを行う。		(未着手)		継続 平成29年度は、地域資源のうち特に藍に重点を置き、国内外のバイヤー等に対してプロモーション等を行い、徳島の藍についてブランディングを進め、販路開拓に寄与するとともに、新たに藍を活用した商品の開発に取り組む事業者に向け、製品開発セミナーを開催し、開発費の一部を補助することで、付加価値の高い新商品の開発に繋げていく。		効果があつた	
交付金実績額(千円)	事業期間	農商工連携等支援事業 (施策8-1 農林水産業の振興) 地域資源を活用し、農商工連携及び6次産業化を推進するため、高収益作物を活用した商品開発を行うための支援等を行う。		7人の農家で組織する生産者グループを立ち上げ、商工業者とマッチングさせることに成功したが、目標数値には到達していないため、今後も加工を希望する生産者・商工業者の掘り起こしをしていく必要がある。		継続 マッチング会の開催や、商工業者のニーズにあった農家を紹介する等、基本的自治体ならではの方法でマッチングを支援する、また、マッチングしているところでは、商品開発を包括的に支援(商品化、PR、販路開拓等)する。		相当程度効果があつた	
(前)28,004 (後)861	(前)H28.3~H29.3 (後)H28.10~H33.3	KPI(重要業績評価指標)							
指標	目標値(H29.3)	実績値	地域産業の首都圏・海外市場等の販路拡大支援		展示会等の補助内容の充実や積極的に補助内容の周知に努めたことで、補助対象の事業者数が増加した。しかし、7月に当初予算が尽きたことからそれ以上の補助を行うことができなかった。海外販路拡大のためのメニューを含め、9月議会で補正を行ったが、半年では事業期間が短かった。		継続 目標の達成に向けて、市内事業者の販路開拓力・製品開発力が向上されるよう、引き続きメニューの充実に取り組み、新たな補助事業者の獲得を図る。		相当程度効果があつた
① 地域資源活用高付加価値商品(試作品)の開発数(累計)	3商品	0商品	中小企業販路拡大支援事業 (施策8-2 地域産業の振興) 中小企業の首都圏・海外への販路拡大に向けた取組を支援する補助制度を設けるとともに、テストマーケティングやセミナー等による情報提供等を行う。		WEBやSNS等での発信力のある料理人や店舗を活用することにより、従来の手法より多くの方に徳島市産農林水産物の価値や魅力を発信することができた。しかしながら、取扱店舗等の増加には結びつかなかったことから、目標値を達成することができなかった。		継続 目標の達成に向けて、引き継ぎ首都圏等大規模市場での発信力のある料理人や店舗等を活用し認知度向上に取組むとともに、広報ツールの充実、関係機関との連携等、あらゆる発信手法の検討を実施し、取扱店舗数の増加を図る。		効果があつた
② 生産者と加工業者のマッチング件数(累計)	3件	1件	とくしま食材ブランド化推進事業 (施策8-1 農林水産業の振興) 徳島市産農林水産物の価値や魅力を情報発信し、知名度や信頼性を高めてブランド化を推進するPR活動を行い、首都圏等大規模市場での販路拡大を図る。		とくしま食材フェアの開催及びとくしまIPPIN店を新たに2店舗認定することで、地元産食材の利用拡大を図った。しかし、とくしまIPPIN店は閉店店舗があつたことから目標値を達成することができなかった。		見直し 平成29年度において、新たな仕掛けとしてとくしまIPPIN店ビンゴゲームを実施し、とくしまIPPIN店への来店者数の増加及び認知度の向上を図るとともに、とくしま食材フェアの周知に繋げることとした。		相当程度効果があつた
③ 補助金を利用して販路拡大に結び付いた事業者の数(年間)	21事業者	21事業者	地域産業の域内消費の拡大に向けた情報発信等						
④ 徳島産食材取扱い店舗増加数(累計)	5店舗	2店舗	地産地消推進事業 (施策8-1 農林水産業の振興) 地元産農林水産物の良さや魅力をPRし、地産地消を推進するとともに、地元産食材の利用拡大を図る。						

平成28年度地方創生関係交付金事業 評価シートNo. 2

事業の名称		賑わいコンパクトシティ形成事業（地方創生推進交付金）										
総合戦略基本目標		県外への人口流出に歯止め ⇒ 社会増の実現（H31）		実績値（H27末） -21人	実績値（H28末） +74人	目標値（H31末） 増加						
事業の概要		取組の名称と内容 （総合ビジョンでの位置づけ）	取組の成果・課題	実績値を踏まえた取組の今後 方針及びその理由		取組効果						
<p>「都市ブランドの向上」、「集約型都市構造の形成」に取り組むとともに、「地域の特性を活かした魅力的なまちづくり」を一体となって実施することにより、「都市のにぎわい再生」と「コンパクトなまちづくり」を推進する。</p>		都市ブランドの向上	<p>徳島市シティプロモーションWEBサイト内のコンテンツや、トップページのデザインの修正を図ることで、アクセス数が昨年より約2万件増加した。 また、市民の愛着度向上を目的に、人形浄瑠璃と音楽の共演イベントを水辺で開催し、多くの人々に徳島の地域資源の魅力を再認識してもらうことができた。</p>	見直し	<p>「心おどる水都」発信プランに基づき実施してきた徳島市シティプロモーションと、観光プロモーションを融合し、魅力ある観光資源の効果的で効率的な情報発信に取り組む。</p>	相当程度効果があった						
		<p>水都・とくしま魅力発信事業 （施策7-1 都市ブランドの創出）</p> <p>交流人口の増加による地域の活性化や、市民の愛着度の向上を目指して、阿波おどりや豊かな水辺環境、文化、歴史、特に世界から注目を集めている「阿波藍」など、本市の地域資源の魅力を市内外に発信する。</p>										
<table border="1"> <tr> <td>交付金実績額 （千円）</td> <td>事業期間</td> </tr> <tr> <td>234</td> <td>H28.9～H31.3</td> </tr> </table>		交付金実績額 （千円）	事業期間	234	H28.9～H31.3	集約型都市構造の形成	<p>国や先進地の情報収集等を行い、立地適正化計画の策定に係る調査・研究を行った。</p>	継続	<p>平成29年度は、まちづくりの方針を検討するために必要な基礎情報の収集、課題の抽出等を行い、平成30年度には、地域住民及び関係団体との意見交換等を行いながら、集約型都市構造の形成に向けた立地適正化計画の策定を目指す。</p>	相当程度効果があった		
交付金実績額 （千円）	事業期間											
234	H28.9～H31.3											
<table border="1"> <tr> <td colspan="3">KPI（重要業績評価指標）</td> </tr> <tr> <td>指標</td> <td>目標値 （H29.3）</td> <td>実績値</td> </tr> </table>		KPI（重要業績評価指標）			指標	目標値 （H29.3）	実績値	<p>立地適正化計画作成事業 （施策7-2 計画的な都市づくりの推進）</p> <p>居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能を誘導することにより、都市機能を集約し、コンパクトな都市を形成するために、立地適正化計画を策定する。</p>				
KPI（重要業績評価指標）												
指標	目標値 （H29.3）	実績値										
<table border="1"> <tr> <td>指標</td> <td>目標値 （H29.3）</td> <td>実績値</td> </tr> <tr> <td>徳島市人口の ① 県外との社会増減数</td> <td>-856人</td> <td>-635人</td> </tr> </table>		指標	目標値 （H29.3）	実績値	徳島市人口の ① 県外との社会増減数	-856人	-635人	<p>建物立地調査事業（都市機能部分） （施策7-2 計画的な都市づくりの推進）</p> <p>今後の施策の基礎資料とするため、医療施設、商業・サービス施設などの立地状況を調査する。</p>	<p>都市の現状を把握するため、都市機能施設（医療施設、商業施設等）の立地状況について調査した。</p>	休止	<p>本事業は、H29年度より実施する立地適正化計画作成事業に引き継ぎ活用する。</p>	相当程度効果があった
指標	目標値 （H29.3）	実績値										
徳島市人口の ① 県外との社会増減数	-856人	-635人										

平成28年度地方創生関係交付金事業 評価シートNo. 3

事業の名称		女性・若者活躍促進事業（地方創生推進交付金）						
総合戦略基本目標		雇用創出数 5年間（H27～H31）の累計で1,000人以上		実績値（H27末） 221人	実績値（H28末） 422人	目標値（H31末） 1,000人		
事業の概要		取組の名称と内容 （総合ビジョンでの位置づけ）		実績値を踏まえた取組の今後 方針及びその理由		取組効果		
<p>女性や若者を中心とした雇用の創出に向けて、女性や若者に力点を置いた就業・創業の支援をするために、女性や若者などの創業促進、若年者の正規雇用化促進、人材育成に取り組むことで、女性や若者の力を活かすことのできる仕組みを構築し、誰もが活躍できる活力ある徳島市の実現を図る。</p>		<p>女性・若者等の就業・創業促進</p> <p>創業促進事業 （施策8-2 地域産業の振興）</p> <p>創業支援事業者（商工団体、金融機関等）と連携し、創業支援相談会、出張講座、セミナー等を実施するとともに、創業予定者、創業後間もない事業者等を対象に、創業に要する経費、または、事業の発展に要する経費の一部を補助する。</p>		<p>各事業所のセミナーや市の補助金等の支援が創業予定者に普及し、実際の創業者数の増加につながっている。</p>	<p>継続</p> <p>今後も創業支援事業者と連携して、相談会やセミナー等の創業支援を行い、創業者の促進に努める。</p>	<p>非常に効果的であった</p>		
		<p>若年非正規労働者正規化促進事業 （施策8-4 働く環境づくりの推進）</p> <p>国のキャリアアップ助成金を活用した事業主に対し奨励金を上乘せ支給し、雇用の安定、中小企業の人材確保を支援する。また、徳島公共職業安定所と連携した就職面接会により、正規化促進に取り組む。</p>					<p>平成28年10月からの補正事業であったため、制度実施時期が年度の後半となり、事業の活用者数が少なかった。</p>	<p>継続</p> <p>平成29年度は、事業の周知を積極的に行ったため、既に予算額の9割程度の執行（5月末）となっている。引き続き事業の実施に取り組む。</p>
交付金実績額 （千円）		事業期間						
738		H28.9～H31.3						
KPI（重要業績評価指標）								
指標		目標値 （H29.3）	実績値					
①	創業件数（徳島市事業の活用者対象）（累計）	2人	2人					
②	正規雇用化者数（徳島市事業の活用者対象）（累計）	10人	1人					
		若者の人材育成		<p>市高生次世代プロデュース事業 （施策1-2 学校教育の充実）</p> <p>市高レインボウプラン（IRP）の再編と拡大…地域理解力・企画立案力・協働実践力を養成する。 高大連携（京大・徳大を中心に）に基づく教育を展開し、地域創生、国際理解への取組を通じた課題解決能力の育成を図る。</p>		<p>地域の魅力を再発見するため外部講師を招聘し、総合的学習の教育講演等を実施するとともに、徳島大学異文化交流事業参加、独高校生来校交流、台湾潮州高級中學との姉妹校締結の事前交渉等を実施した。</p>	<p>継続</p> <p>地域理解力・企画立案力等を養成するため総合的学習の教育講演等や、国際理解力や総合的な英語力を向上させるため徳島大学異文化交流事業参加等、交流事業を引き続き実施する。</p>	<p>相当程度効果があつた</p>

平成28年度地方創生関係交付金事業の評価・意見 No. 1

事業の名称	地域資源を生かした高付加価値産業育成事業(地方創生加速化交付金)※前身事業 とくしま新未来産業のブランド創出とグローバル展開戦略(地方創生推進交付金)※後継事業	
評価	意見	
本事業が相当程度有効であった	具体的な施策が行われているが効果のあったものの時間が足りなくて目標値に届かない事業も多かった。新商品の開発には期待が持てるので、テーマをしぼって重点的に予算配分をしてほしい。	
本事業が有効であった	KPI指標のいくつかは目標値を達成しておらず、今後一層の努力が必要と考え、有効であったに印をつけた。高付加価値商品の開発、農商工連携支援事業のいずれも市と産業発展のために必要なものであり、今後この事業を進めていくことが必要であると考え。地産地消の推進もはかられていくことが必要であろう。期間の問題や商工業者の事情等もあろうが、一層の推進をお願いしたい。	
本事業が有効であった	1 首都圏における「とくしま食材ブランド化推進」については、まず取扱店舗の増加が不可欠であることを考えれば、魅力発信の取組が効果に結び付いていないことが残念である。広報ツールの充実と同時に「人脈」が大切なのではないか。 2 地産地消の積極的PRは評価できる。ビンゴゲームなど独創的な仕掛けに期待したい。	
本事業が有効であった	本事業はKPIが多少伸び悩んでいるものの、基本目標の達成に貢献していると判断し、有効であったといえる。取組内容も基本目標の方向性に合っており、特に「とくしま地域資源活用事業」は基本目標に貢献する伸びしろが大いにあると考えられ、事業の実施は期待できる。 逆に、「とくしま食材ブランド化推進事業」は基本目標達成には必要であると考えられるが、目標値が達成できていないため、老若男女に情報が届きやすく興味を持ちやすいようなSNS等を活用した広報をする必要があると考えられる。	
本事業が有効であった	全体として“効果があった”とするには早すぎる段階ではないだろうか。目標値も達成していない項目が多い。しかし、一定の取り組みや成果が認められるため、事業としてみると必要であったと考えられる。 個別では、「とくしま食材ブランド化推進事業」について「発信できた」となっているが、重要なのは受信側の意見である。効果的な発信であったのか、先につながる内容であったのか等、検討して、次に活かすとよいと思う。	
本事業が有効であった	現時点では、目標に結びつく成果がほとんど見られない状況であり、有効性の実質的な判断は難しい。 「とくしま地域資源活用支援事業」は、どのような根拠で「効果があった」と言えるのか疑問。「農商工連携等支援事業」は、試作品開発0件で「相当な効果」となぜ言えるのかも疑問である。	
本事業が有効であった	KPIの達成に向けて、進んでいると感じられる。 取組内容も基本目標に合致し、地域の特性も活かしたものとなっている。 とくしま地域資源活用支援事業、とくしま食材ブランド化推進事業については、これらが順調に進むと他の取組にもプラスになると思うので頑張してほしい。	

平成28年度地方創生関係交付金事業の評価・意見 No. 2

事業の名称	賑わいコンパクトシティ形成事業（地方創生推進交付金）	
評価	意見	
本事業が相当程度有効であった	<p>本事業は、事業のKPIを達成できており、基本目標の達成に向けて順調に推移しているため、相当程度有効であったといえる。</p> <p>特に「水都・とくしま魅力発信事業」にて成果として挙げられた徳島市シティプロモーションサイトのデザインはとても見やすく、水辺でのイベントも興味を持ちやすい。今後も事業を継続して実施・拡大に努められると良いと考える。</p>	
本事業が相当程度有効であった	<p>プロモーション事業については、担当者の人的素質、体制によるところが多い。若手、女性、外部協力者など多様性のある体制見直しが望まれる。</p> <p>「建物立地調査事業（都市機能部分）」については調査のみに留まっており、その分析とKPI向上への知見整理すべきであるが、記載されていない。</p>	
本事業が有効であった	<p>人口の社会増の実現ということで進められている事業で、28年度には、+74人の実績をあげられたが、ネットへのアクセスの増加、市の魅力の再認識が、その理由としてはやや弱いことが挙げられる。また、集約型都市構造の形成についても調査・研究の段階であり、取り組み効果を計るには難しいのではないかと考えた点から、有効であったに印をつけた。今後有効なシティプロモーション、観光プロモーションの展開を期待したい。</p>	
本事業が有効であった	<p>都市ブランドの向上に向けてWEBサイトの充実などによりアクセス数が増加したことは評価できる。にもかかわらず「地域ブランド調査」の魅力度ランキングは依然として低迷していることから、SNS、出版物、マスコミ、パブリシティなど多角的な情報の発信戦略を推進することが求められる。</p>	
本事業が有効であった	<p>少ない予算の割には新しいWEBコンテンツを作るなど一定の効果があった。</p> <p><7-2 計画的な都市づくりの推進>に関しては、まだ評価の段階でないように思う。</p>	
本事業が有効であった	<p>本事業はKPIが達成できており、有効であったと思えるが、「集約型都市構造の形成」については、調査・研究が成果として挙げられており、具体的にアウトプットされていないことから、社会増減数は本事業のみでの結果であると判断しきれない。今後の取り組みが重要であり、期待したい事業である。</p>	
本事業が有効であった	<p>KPIを達成できており、効果があったと考えられる。</p> <p>数値的には順調に推移しているが、実際に生活している者としては、都市のにぎわいやコンパクトシティの利便性はそれほど感じられない。</p>	

平成28年度地方創生関係交付金事業の評価・意見 No. 3

事業の名称	女性・若者活躍促進事業（地方創生推進交付金）	
評価	意見	
本事業が相当程度有効であった	<p>本事業は取り組みの成果が認められることから、相当程度有効であったと考えられる。 創業促進事業については、支援内容などのノウハウを蓄積し、情報を共有する等、今後を活かして欲しい。また、若者の人材育成については、卒業後も本県で活躍する場を与えられるよう努め、流出を防ぐことを考えなければならない。（またはUターンなど）</p>	
本事業が有効であった	<p>創業促進事業は目標値を達成しているが、正規雇用者数は未達成である点などから、有効に印をつけた。 女性や若者の働く場の確保は、市の魅力アップにつながり、人口の増加にもつながるものであり、さらなる推進を図ってほしい。</p>	
本事業が有効であった	<p>1 創業促進については、実際の創業件数が増加していることから有効であったと言える。 2 若年労働者の正規化促進については現時点では事業の周知に先行的に予算を執行しているとのことだが実績には結びついていない為、効果の有無の判断にはもう少し時間を要する。 3 市高生の次世代プロデュース事業の中身は大変に重要な事項ばかりであるが、この内容について客観的に効果を測定することは難しい（どのような指標で判断するのか？）</p>	
本事業が有効であった	<p>本事業は制度実施期間が短期間のものも在ったが、基本目標の達成に貢献していると判断し、有効であったといえる。 特に「若年非正規労働者正規化促進」事業は基本目標の方向性にあっており、現代社会においても重要なものであろう。この事業の広報を充実させることは目標の達成につながるのではないだろうか。</p>	
本事業が有効であった	<p>創業支援は県・市・各種団体それぞれが積極的に取り組んできた事業であり、一定の効果は出ている。 ただ、人材育成については、実績、数字が低すぎて問題だと思う。もっと効果的な新しい事業を考えてほしい。</p>	
本事業が有効であった	<p>女性・若者に限定した指標が必要でないか。 「市高生次世代プロデュース事業」は事業内容しか書かれていない。どのような事実をもって“相当な効果があった”と判断しているのか？</p>	
本事業が有効であった	<p>基本目標の達成に順調に推移していると感じる。 取組内容は基本目標に合致していると感じる。 特に創業促進事業は基本目標の達成に効果的であると考えられる。ただ、事業主の高齢化によって需要があるにもかかわらず、事業を終了するような場合に、これを継承できるような人材を育成もしくはマッチングを図るような取組も必要と感じる。</p>	